

入間リサイクルプラザ見学会報告

エコ・リサ研修見学会は、毎年夏に開催し 12 回目になります。今年は 8 月 23 日に参加者 21 名で入間リサイクルプラザと坂戸市環境学館いすみを見学しました。(報告 : 大前)



リサイクルプラザは、入間市総合クリーンセンターに併設されているため、入間市のごみ処理についての研修からスタートしました。焼却炉などの施設内の様子は、テレビモニターの切り替えで、見学者も廊下で確認できるような設備になっています。クリーンセンターは H 8 年に 123 億円かけて竣工、3 基の焼却炉が 7 時 30 分から 11 時 30 分までの 16 時間稼動で 1 日 150 トンのごみを焼却しています。リサイクルプラザは H 11 年 3 月に竣工、年末年始以外は営業しています。正職員は 3 名のみ、リサイクル研究室の市民ボランティア 37 名と 7 団体で運営しています。

1人1日934g

入間市の人口は、15万人弱で近年横ばいの状態、ボランティアの方々の減量活動・運動への取り組みや市民の徹底した分別への対応の結果、H 13 年度の 55,088t をごみ量のピークとして、H 16 年度は 51,141t と約 4,000t 減少しています。そのため、1人1日のごみ量は 934g と微減傾向にあり、今後も 1 日 100g 減量を目指しています。

資源化貧乏

ごみ処理にかかる経費は、H 13 年度に比べて H 16 年度は 1 億 6 千万円もアップしています。リサイクル費用として 7~8 千万円、プラスチックなどの容り法に関して 6~7 千万円かかり、資源化を進める費用負担が大きく、一人あたりのごみ処理額は、12,444 円となっています。

ピットで火災

ちょうど、ごみを収集車がごみピットに搬入している時に、多量の放水をピット内にしていたので確認したところ、収集車のごみが火災を起こしたため、ぼや程度だったために、その場で水をかけて消し止めたということでした。環境センターで、収集中のごみがよく燃え始めると聞いてはいたものの、火災現場に遭遇することになり、あらためてライターやガスボンベの廃棄時の注意の大切さを実感しました。

焼却灰の資源化

入間市内に 12 万立方メートルの最終処分場があります。最終処分場の延命のため、焼却灰をセメントに 35% 混ぜて高熱で溶融することで、御影石のような建設資材にリサイクルし、埋め立てる焼却灰を 45% 程度減らしています。現在 66% くらい埋めているので、ごみの排出量が現在程度を維持した場合、H 27 ~ 28 年頃まで使用することが可能になります。

職員が資源ごみパトロール

資源ごみに関しては、昨年有価物として抜き取りを禁止する条例を制定し、市内 3,184 カ所の集積所にチラシを貼って周知を徹底、職員が 7:30 ~ 8:30 までパトロールをしています。

再生品販売額は年間 460 万円

家具や小物類は、シルバー人材センターの一級家具資格者 5 名に修理を依託。自転車の販売やフリーマーケットの収入とあわせて、H16 年度は約 460 万円の収入がありました。シルバー人材センターに 460 万円の依託費を支払っているので收支はトントンですが、確実にごみを減らすことができました。修理した家具などは、リサイクルプラザに価格と重量を表示して、抽選ではなく、希望者に販売しています。木製の端材を使って、コマや動物のおもちゃを作り、保育所などに寄付し使ってもらっています。



第 2 日曜はリサイクルの日

リサイクルプラザでは、リサイクル研究室のメンバーが講師となって毎月第 2 日曜に、マイバッグを古布で製作指導・布ぞうり作り・生ごみ堆肥化相談コーナー・さき織り教室・おもちゃ病院・リサイクルおもちゃ作りなどの様々な教室を開催しています。

出前講座

リサイクルプラザでの体験教室はもちろんのこと、小学校や自治会などを対象にごみ分別ゲームなどの出前講座をボランティアと協力しながら職員が積極的に展開し、市民にごみ減量の理解をはかっています。リサイクル石けんに関しては、指導員制度を設け、給食センターの廃油を原料とした石けん作り講座を行い、無料配布しています。

腕のみせどころ



イスのクッションを張り替える作業は、傷んだクッション部分を取り外す事が大変で、座面を止めつける手際のよさは見とれてしまうほど。聞けば、布とウレタンが接着された座面に使う材料も廃棄されたものからの再利用とか。廃棄物の中から、新しい利用方法を見つけていくのもリサイクルプラザの醍醐味かもしれません。

坂戸市環境学館いづみ

H14 年 11 月に建設費約 1 億円かけて建設された、北坂戸駅から徒歩 15 分の住宅街の中にある木造平屋建ての施設です。展示室の梁には新潟県寺泊の古民家の一部が再利用されており、高麗川流域の生きものや風景などが展示されています。



10 kW の太陽光発電システムが、約 880 万円の NEDO の補助金・グリーン電力基金助成金にて設置されており、主に施設内の空調設備の電気として利用されています。雨水再利用システムとして 20 立方メートルの貯水タンクの水をトイレ洗浄水に利用しています。

ホール床には下水再生レンガが敷き詰められているのですが、レンガの質が一定でないためにデコボコが生じており、危険防止のためにじゅうたんを上から敷き詰めているとのことで、やはりリサイクル製品の質の向上が、今後の循環型社会構築には必要不可欠と感じる場面でした。

さき織りや布ぞうり製作などの体験教室は、小学生から一般の方まで人気の講座となっています。様々な団体が廃食油をリサイクルして石けん作りに取り組んでいます。